

提案—3 霧島山ジオパーク支援地域づくり

現在、世界ジオパーク構想がユネスコの主導で進められている。ジオパークとは、科学的に重要で貴重な、また、美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園で、その地質遺産を保全し、地球科学の普及に利用し、さらに地質遺産を観光の対象とするジオツーリズムを通じて地域社会の活性化を目指すものである。

日本もやっと本腰を入れてきた。高千穂の峰、韓国岳、神秘的な火口湖が多く擁する霧島連山を取り囲む5市2町は、連合して認定を目指して活動している（幹事役＝霧島市）。

そこで、提案は、世界ジオパーク認定を側面から支援・促進するとともに、あわせて山の裾野に広がる人里を、生命の大地としてふさわしい雰囲気とする運動を展開しようとするものである。

自治体単位に地域づくりの核を創る。互いにスパイラルアップするため交流を行い、計画や実施状況を発表する場を創る。

例：神武の里づくり（高原町）、しみじみの里（小林市）。県境を越えた環霧島山交流体とする。

注：

1．霧島山を取り巻く市町村は、鹿児島県霧島市・曾於市・湧水町、宮崎県都城市・高原町・小林市・えびの市の、5市2町である。

2．参考（日本ジオパーク連絡協議会ホームページより）

【ジオパークとは、科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む一種の自然公園です。ジオパークでは、その地質遺産を保全し、地球科学の普及に利用し、さらに地質遺産を観光の対象とするジオツーリズムを通じて地域社会の活性化を目指します。2001年6月のユネスコ執行委員会で、ユネスコが地質学的に特別意義のある地域や自然公園の発展を推進するメンバー国の努力を支援することが勧告され、以来ジオパークはユネスコの支援の下世界各国で推進されています。2004年には世界ジオパークネットワークがユネスコの支援により設立され、2008年6月現在で57箇所のジオパークが、参加基準を満たすジオパークとしてネットワークに参加しています。ユネスコのガイドラインによれば、世界ジオパークの一員となる Geopark は次のようなものとされています。

世界ジオパークネットワークに参加する Geopark は：

- ・地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- ・公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ・ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。

- ・ 博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
- ・ それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- ・ 世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。 】